

祝

盛岡市指定無形民俗文化財 指定
土淵伝統さんさ踊り保存会

令和7年度 第2回

もりおか

郷土 芸能 フェス ティバル

令和8年

2月22日(日)

キャラホール

(盛岡市都南文化会館)

盛岡市永井24-10-1



出演団体 (12団体予定、順不同)
※出演団体及び出演団体数は変更になる場合があります。

【神楽】玉山神楽保存会
日戸神楽保存会

【田植踊り】黒川田植踊り保存会

【獅子踊り】法領田獅子踊り保存会

【剣舞】大ヶ生高館剣舞保存会

【さんさ踊り】高江柄念仏剣舞保存会

【特別出演】北山芸能保存会
伝承 上厨川さんさ踊り
羽場さんさ踊り保存会
乙部さんさ踊り保存会
滝の下さんさ踊り保存会
土淵伝統さんさ踊り保存会



開場 9:30 開演 10:00 (終了予定16:30 途中昼休憩あり)

入場料 〈前売〉800円 〈当日〉1,000円 〈高校生以下〉無料

前売券販売所 ※前売券は事務局及び市内プレイガイドにて、開催日の1か月前から発売予定
盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会事務局(盛岡市教育委員会事務局歴史文化課内)、キャラホール、川徳、プラザおでって、いわて生協(市内6店舗
(向中野、高松、仙北、山岸、松園、青山)、ペルフ牧野林(滝沢市)、コープ花巻あうる(花巻市)、ペルフ八幡平(八幡平市)、マリンコープDORA(宮古市))

◆主催/盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会 ◆共催/盛岡市、盛岡市教育委員会 ◆助成/令和7年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)
◆後援/(一社)岩手県文化財愛護協会、(公財)盛岡市文化振興事業団、(福)盛岡市社会福祉協議会、(公財)盛岡観光コンベンション協会、岩手日報社、NHK盛岡放送局、
IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、岩手ケーブルテレビジョン、ラヂオ・もりおか、月刊アキュート、情報紙ゆうゆう

お問い合わせ 盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会事務局(盛岡市教育委員会事務局歴史文化課内)

TEL:019-639-9067 (FAX:019-639-9047) E-mail:edu.bunka@city.morioka.iwate.jp



出演団体の紹介・出演順

開 会 式

① 伝承上厨川さんさ踊り(盛岡市上厨川)

昭和19年に旧川井村田代から上厨川に嫁いで来た丹野キンが田代のさんさ踊りを地域住民に伝えたのが始まりです。

田代では、念仏剣舞とさんさ踊りを一緒に組になってお盆の夜を踊り明かす習慣があり、田代と上厨川それぞれで守られてきた踊りですが、令和6年からは組で踊っていた田代念仏剣舞と交流を始め、合同で踊りを奉納しています。

② 日戸神楽保存会(盛岡市日戸)

明治8年、下厨川村(現盛岡市下厨川)の日吉朝賢に師事して始められました。伝授された「御神楽十二神将舞」には、「猿田彦大神、利生八幡、山神、翁、三番、戸隠、恵比寿、若子、天女、般若、三方荒神、神明切舞」が書かれています。

正月、地元の日戸自治会の新年会交賀会で御年始神楽を行うほか、日戸八幡神社など数ヶ所の例大祭での奉納を行っています。

③ 滝の下さんさ踊り保存会(盛岡市川目)

滝の下さんさ踊りは、盛岡市の東部、東山の名勝「白滝」の下流、滝の下地域に伝わる伝統さんさ踊りです。言い伝えによれば三ツ石神社からの流れと言われていますが、定かではありません。

踊りながら輪になる“通り太鼓”はあまり例がなく、テンポが早い躍動的な踊りが特徴です。昭和50年に保存会を結成し、今年度50周年を向かえました。

④ 高江柄念仏剣舞保存会(盛岡市大ヶ生)

この踊りは、別名「念仏阿修羅踊り」とも呼び、聖徳太子の時代に始まると言われ、昔大和の天王寺で行われていた盆踊りの供養踊りから発して、庶民に習わせたのが剣舞の始まりと伝えられています。

大笠は、寛文の年、藩主利直の内室が没した時、その靈魂供養のために五重の塔を作り、後に盛岡三戸町の金兵衛なる者へ下賜されました。その後、五重の塔と太鼓が、明治の頃、高江柄の勝文子家に伝わりました。

毎年8月16日には、庭元にて供養踊りとして行われたが、現在は供養塔の前で拝み踊ります。

昼 休 憩

⑤ 特別出演

土淵伝統さんさ踊り保存会(盛岡市土淵)

土淵伝統さんさ踊りは、旧厨川村に古くから伝わる踊りで、明治時代から継承されています。先祖供養と五穀豊穡を祈念して奉納され、地元のお祭りや盆踊りで大切に踊り継がれてきました。8月7日には神山神社の例大祭にてさんさ踊りを奉納しています。

平成25年に保存会を立ち上げ、この貴重な伝統を守り継承しています。踊り方や衣装が、太鼓と踊り手で異なり、3種類の演目だけがテンポが違うのも特徴です。

⑥ 大ヶ生高館剣舞保存会(盛岡市大ヶ生)

陸奥守鎮守府將軍の源頼義、義家父子が安倍氏の高館を攻略する際、兵卒を奮起させるために、「阿修羅踊り」と称する舞踊を躍らせて士気を高め、難攻不落と言われた高館を攻め滅ぼすことが出来たと言います。これがこの剣舞の起こりと伝えられています。大ヶ生高館剣舞は他の念仏剣舞とは内容が異なり、踊り方も勇壮で烈しいことが特徴です。大ヶ生の風土や行事に深く関わり、地域の人々の願いや祈りが込められています。

⑦ 羽場さんさ踊り保存会(盛岡市羽場)

羽場さんさ踊りは、猪去から羽場に婿に来た方から「さんさ踊り」というものがある。」と聞いた初代の方々が猪去へ行き、教えてもらったのが由来です。

腰を落とし、足を引きずるように踊る。足の裏を見せないように踊るといった特徴があります。自治会の盆踊りや秋葉神社での奉納が主な活動となっています。

⑧ 玉山神楽保存会(盛岡市玉山)

玉山神楽は、明治初期に、天台宗修験の熊沢氏(清宝院)が西福院の川又神楽を引き継ぎ、岩手町の行法院神楽との交流を経て奉納したのが始まりとされています。

演目には、県北地域に伝承されている「虎の口」が含まれており、近隣の神楽には見られない要素があることから、県北部の神楽の影響が大きいものと考えられています。

⑨ 法領田獅子踊り保存会(盛岡市乙部)

南部藩の祖、南部光行公が奥州に下向する際、道中安泰・願望成就・豊年の神として竜頭の獅子を同行したのが始まりで、農民が継承してきました。明治18年以降途絶した時期もありましたが、昭和31年に盛岡農業高校乙部分校の生徒により復興、昭和42年には乙部青年団により保存会を設立しました。

地元の小中学校への伝承活動も盛んで、親子2世代、3世代で継承に取り組んでいる家族もいます。

⑩ 北山芸能保存会(盛岡市北山)

盛岡北山には、南部家に縁の深い寺院が集まっています。藩政時代に盛んに踊られていた盆踊りは、明治時代「三門前踊り」という組織として発足しました。これが現在の北山芸能保存会の起源になります。

南部家の家紋「向い鶴」を浴衣に染め上げ、お殿様や農民たちの気持ちを様々な踊りに託して今に伝えます。

⑪ 黒川田植踊り保存会(盛岡市黒川)

明治初期より小正月に上演されておりました。途絶えた時期もありましたが、昭和55年5月に復活し、地元の館林神社や桜山神社の例祭に奉納しております。

手作業で行う田植の作業をそれぞれ踊りで現わしています。また、太鼓は「振りばち」で華やかさを添えます。

⑫ 乙部さんさ踊り保存会(盛岡市乙部)

乙部さんさ踊り保存会は保存会として結成されて以来、38年を迎えました。地域に若い層の人たちが減り、少ない人数ではありますが、なんとか乙部に伝わる伝統芸能を絶やさないようメンバー全員で頑張っています。

乙部さんさ踊りの特徴である跳んだりしゃがんだりの上下の動きや、5色の腰帯が揺れる様子を見ていただきたいと思います。